

2019 年通期決算説明会における主な質疑応答

(2020 年 2 月 6 日 (木)、東京)

Q 1. 新型コロナウイルスの影響はどうか。

A 1. 中国内の 5 拠点とも今のところ稼働は継続しており、仕入れ、出荷とも影響は出ていません。また、グループ会社では感染者は出ておりません。今後については動向を引き続き注視しながら対応していきます。

Q 2. 2019 年度、営業利益が減少した理由を教えてください。

A 2. ガラスファイバの減収等に係るものが多くを占めています。

Q 3. 2020 年度の業績予想は、上期、下期であまり変わらないがどのように見ているのか。

A 3. 下期の方が少し強いイメージを持っています。両主力事業とも後半に向けて収益性が向上していくものと考えています。

Q 4. 2020 年度の業績予想について、営業利益が前年度とほぼ横ばいの理由を教えてください。

A 4. ガラスファイバ事業に係る減損損失により、30 億円程度の償却負担が軽減されると見込んでいます。一方、ガラスファイバ事業については 2019 年は期半ばから稼働調整をしましたが、2020 年は年間で稼働調整を行う予定なのでコスト高になると見込んでいます。価格についても足下で需給が緩んでいるため少し変動しやすくなっています。ディスプレイ事業についても 2020 年は修繕費用を前年より多めに見込んでいます。

Q 5. LG ディ스플레이の減産の影響は。

A 5. LG ディ스플레이は韓国では液晶は TV 用の生産は止めるようですが、モバイルやノートパソコン等の小型用や OLED 用の生産は継続されると聞いています。また、韓国でのガラス需要は減少しますが、中国で生産を増やされます。当社は、韓国及び中国全体でシェアを増やしていただいていますので、出荷減少は見えていません。

Q 6. ディ스플레이事業について中国で拡販を進めるとのことだが、具体的にどこに販売していくのかを教えてください。

A 6. LG ディ스플레이以外にもいくつかの中国メーカーへの販売を見込んでいます。具体的な契約交渉が進んでいるところもあります。

Q 7. ディ스플레이市場は将来、需要が減少するとの見方もある中、御社は中国で能力増強をする予定だが投資回収はできるのか。また、日本はどうしていくのか教えてください。

A 7. 今後、色々と新しい技術が出てくるものと思われまますのでガラス需要が減るとは考えていません。中国は日本に比べてコストが安いだけでなく、これまでよりも効率の高い設備を導入することで投資額を絞ることができまます。リターンは取っていける投資だと考えています。日本はコストが高いため、今後は設備を集約させつつ研究開発機能を強化していきます。

Q 8. G10 の生産はしているのか。

A 8. 当社は韓国において既に G10 の設備を保有しており、いつでも生産可能です。

Q 9. ディスプレイ用ガラスの価格下落が他社と比べて大きいように思うが。

A 9. 基板サイズ、地域等により価格は変わってくるので説明は難しいです。当社は品質や顧客対応が評価されているものと考えています。他社のことはコメントできません。

Q 10. 米国ガラスファイバ子会社の一部工場の閉鎖に係る費用はどれぐらいか。

A 10. 比較的小さい工場なので数億円程度にとどまるものと思います。一方で売却による収入も見込まれます。

Q 11. ガラスファイバ事業の稼働調整の見通しと在庫水準について教えてほしい。

A 11. 稼働調整は2019年6月ぐらいから継続していますが、市況が回復していないため在庫も思うように減っていません。2020年は米国では期半ばにフル稼働に持っていけるものと見込んでいますが、マレーシアでは稼働調整を継続する予定です。年末には在庫水準も下がり稼働も上げられるものと見込んでいます。

Q 12. ガラスファイバ事業の稼働調整の方法を教えてください。

A 12. 溶融炉はそのままにして成形設備の一部を止めることで調整しています。成形設備は生産性が落ちているものや修理時期が近いものを優先して調整しています。溶融炉の温度を維持したままです。エネルギーコストは大きく変わりません。

Q 13. 自動車の販売はそこまで落ちていない中、御社のガラスファイバ事業の売上が減少したのは、マーケットだけでなくシェアを落としたことも原因ではないか。

A 13. マーケットが落ちたことが主因だと考えています。思った以上にサプライチェーンに流通在庫があったように感じています。それ以外、マーケットが緩んでいたため一部中小の顧客では価格の安いプレイヤーに流れたものがありますが、大手顧客では特にシェア変動はなかったように思います。

Q 14. ガラスファイバ事業は2019年4Q以降回復してきていると思うが市況はどうか。

A 14. 2019年11月、12月と比べると出荷は回復の動きが見られます。今年のスタートは悪くないと考えています。

Q 15. 欧米のガラスファイバ事業の損益は2021年には改善するのか。

A 15. 中期経営計画最終年度には回復するものと見込んでいます。

Q 16. 見直し後の中期経営計画では売上高、営業利益とも大きな伸びを想定していないが、主要製品の利益率の見直しを教えてください。

A 16. ディスプレイ事業は、2019年度は全社平均を上回る水準ですが、2桁%を目標としています。ガラスファイバ事業は一時期10%台でしたが今は1桁前半%レベルです。2桁%台には戻っていきたいと考えています。電子部品事業は3割ぐらいは出したいと考えています。

※このメモは、投資家の皆様へのご参考として掲載するものです。

※このメモは、説明会における質疑応答の一字一句を全て書き起こしたものでなく、弊社の判断で簡潔にまとめさせていただいておりますので、ご了承ください。

※このメモには、将来の弊社の業績や弊社を取り巻く業界の環境に対する予想が掲載されています。これらは弊社グループが開示時点で入手可能な情報に基づく判断によるものであり、リスクや不確実性を含んでいます。また、このメモの内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。